



浮腫病は、腸内大腸菌の毒素産生によって離乳子豚が急死する経済的損失の大きい疾病です。まぶたの腫れや神経症状が出た時点で手遅れとなる場合が多いため、従来、予防的な対策が講じられていました。特に亜鉛製剤の飼料添加は、大腸菌の小腸への定着を阻止する目的で実施されている効果的な対策ですが、堆肥中の亜鉛濃度が高くなるという欠点があります。

2021年に浮腫病ワクチンの販売が開始されて、当研究部門でワクチン接種の効果を確認したところ、離乳子豚の事故率を大幅に抑制するとともに、炭酸亜鉛の飼料添加を0.3%から0.15%へ半

減できることが分かりました。しかし、環境負荷低減の観点から一層の使用量削減が求められます。そこで、浮腫病

浮腫病ワクチン 離乳子豚への接種で 環境負荷軽減に貢献

ワクチンを接種した上で、炭酸亜鉛の飼料添加を無添加とした場合の影響について調査しました。その結果、浮腫病ワクチンを接種すると、炭酸亜鉛を無

炭酸亜鉛の添加量が浮腫病ワクチン接種子豚の事故率と日増体量に及ぼす影響

炭酸亜鉛	群数 (群)	離乳子豚頭数 (頭)			浮腫病 ワクチン 接種	死亡 頭数 (頭)	事故率 (%)	日増体量 (kg)	
		去勢	雌	計				去勢	雌
0.15% 添加	4	16	18	34	有	0	0	0.80	0.79
無添加	5	16	24	40	有	0	0	0.84	0.75

添加にしても浮腫病の発生は見られず、日増体量も差はありませんでした。予防的対策が基本となる浮腫病の特性上、ワクチン接種へ切り替えることが、環境負荷低減に貢献できる効果的な対策であることが示唆されました。

(県農林技術開発センター 畜産研究部門 中小家畜・環境研究室主任 高木豪)